

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会広報委員会
参 加 者	委 員 長 鈴木 静男 副委員長 神谷 茂樹 委 員 大原 昌幸 本多 勝 加藤 史朗 山村 栄 瀬戸清太郎 三浦 康宏 加藤 嘉哉
視 察 日 時	令和 8 年 5 月 13 日（水） 14：30～16：00
視察先・概要	千葉県習志野市 人口：175,009人 世帯数：85,605世帯 面積：20.97 k m ²
視 察 項 目	議会だよりの編集について
視 察 概 要	1 市議会だよりの発行状況とスタイル (1) 概要とデザイン ア 基本仕様と発行 年 4 回（2・5・8・11月）発行、A 4 判・12ページ、全ページフルカラー。 イ 視覚的工夫 発行月ごとにイメージカラーを変更、フォントは原則「UD丸ゴシック」を採用。 ウ 予算と部数 1 回あたり 5 万 2,000部を発行（令和 8 年度当初予算：約739万円）。 (2) 配布と周知方法 ア アナログ配布 新聞折り込み、ポスティング（個別郵送含む）、市内公共施設や全 6 駅へのラック設置。 イ デジタル配信 登録者約 7 万 6,000人の「市公式LINE」やアプリ「マチイロ」等での公式配信。 2 議会報編集委員会の運営体制 (1) 委員会の構成と役割 ア 構成 各会派から 1 名ずつ選出された計 9 名の議員で構成（任期 2 年）。 イ 編集プロセス 1 期あたり 2 回開催。第 1 回でページ配分や表紙写真を選定し、第 2 回で仮原稿の最終確認を行う。 (2) 紙面作成のルール ア 一般質問の掲載 市民が見やすい「Q & A 形式」を採用

	イ 行数配分 議員ごとの掲載枠は、定例会ごとの質問者数に応じて一律に圧縮・配分 3 独自の取組と運用状況 (1) 議員による広報活動 ア 早朝駅前配布 発行日の朝、編集委員（議員）自らが主要駅の街頭に立ち、手配りで市民へ配布。 イ ラックの改善 手に取りやすい大型ラックへ更新し、行政広報誌に埋もれない工夫を実施。 (2) 表紙写真の市民公募 ア 公募の概要 平成26年より開始。応募資格は市外の「市に縁のある人」まで広く拡大。 イ 縦型へのリニューアル スマホ撮影に対応しやすくするため、令和8年2月号より「横位置」から「縦位置写真」へ全面移行。 4 現状の課題 (1) 編集・運用上の課題 ア スタイル変更の要望 市民から「横書き・左綴じ」への変更要望が定期的にあるが、現状は縦書きを維持。 イ 応募者の固定化 応募者が趣味の撮影層に偏り、発行月との季節感のミスマッチにも苦慮。縦型移行を機に若年層など新規獲得を目指す。
所 感 ※視察しての感想や岡崎市への提言など	・ 習志野市議会の視察では、市議会だよりの表紙写真の応募者が固定化しやすいという課題を伺った。習志野市では、写真募集そのものを広く周知し、市民が参加しやすい入口をつくっていた。とりわけ、高等学校写真部など若い世代に対する働きかけは、新たな応募者層を広げるだけでなく、議会そのものへの関心を高める契機にもなる。また、議会に関するクイズの掲載は、固さを意図的に排除し市民感覚に寄り添う工夫であり、こうした細やかな配慮に議会の姿勢が表れると感じた。今後も本市議会基本条例の趣旨を踏まえ、議会活動の周知と親しみやすい広報の充実に努めていきたい。 ・ 習志野市では、希望世帯 10,500 部へのポスティングを実施しており、また LINE 登録者数は 76,000 名もの多い登録者がいる。将来的に地方自治体の広報誌等は、紙媒体による配布からインターネットを活用した閲覧へと移行し、ペーパーレス化が進んでいくことが予測される。現在の高齢者が減少し、スマートフォンなどのデジタル機器に慣れた世代の市民が年々増加していく状況も踏まえると、費用面を含め、今後の在り方を検証していくべき重要な課題であると考えている。習志野市議会だよりで

は、表紙に「年４回の発行」であることと「発行月」が明記されており、読者にとって分かりやすい工夫がなされている点は参考にすべきである。また、ミニクイズの掲載など、読者が親しみやすく感じられる取組も行われている。表紙写真の市民応募については、人物写真も募集対象となっているものの、令和８年から遡って令和３年度までの間に人物写真の掲載はなく、風景写真のみであった。これは、人物写真を応募する際に当人の許可取得などの手続が必要であり、応募のハードルが高いことから応募数が少ないとの説明があった。本市においても、今後表紙写真を募集する際には同様の状況が想定されるため、注意すべき点であると考える。

- ・習志野市では、平成２６年から市議会だよりの表紙写真公募を開始し、写真のみに絞った運用を約１２年間継続している。編集委員会は各会派１名、計９名で構成され、各定例会の閉会日に表紙写真や紙面構成を協議するほか、発行日朝には委員自らが市内の駅前で配布を行うなど、議員の主体的な関与が特徴的であった。一方、応募者は１２年間で実数３８人にとどまり、固定化と件数不足が課題と認識されている。令和８年２月の縦撮りへの変更時には、過去の横撮り作品が選考対象外となるなど、デザイン変更時には応募者への丁寧な対応も不可欠である。本市でも公募制度の設計に当たり、地に足のついた継続運用と、議員自身が現場に立つ広報姿勢を参考としたい。
- ・習志野市では平成２６年に表紙写真の公募を開始し、近年では毎年１０件程度の応募がある。その応募者が公募情報を得た先としては、議会だよりの募集案内が最も多いと聞いた。さらに、同市ではこの議会だよりの配布に精力的に取り組んでいることにも注目したい。本市においても、募集媒体のベースとなるのは議会だよりになると思われるため、同市のように、駅前や施設でのラック配置や駅前での手配りなどで、議会だよりの配布をこれまで以上に積極的に取り組むことも選択肢の一つとして検討したい。また、応募のきっかけとして、議員や職員からの口コミも大きいと聞いた。紙での情報提供に加え、議員や事務局の一人一人が身近で応募してくれそうな人に声をかけることも提言したい。
- ・習志野市では市政施行６０周年を機に、議会だよりをリニューアルし、平成２６年５月から約１２年間にわたり表紙写真の公募を継続しており、市民に親しまれる議会だよりづくりに取り組んでいた。応募資格を市に縁のある方まで広げるなど、より多くの方が参加しやすい工夫がされており、継続して市民参加を促している点が大変参考になった。また最終ページにクイズを掲載するなど、議会だよりに親しみを持ってもらう工夫に加え、駅への設置や駅前での配布、LINE 配信など、多くの市民の皆様手に取ってもらうための取組も印象的だった。本市においても、より多くの市民の皆様に気軽に応募してもらえる工夫を進めるとともに、議会だよりを通じて議会をより身近に感じてもらい、市民参加の輪が広がっていく仕組みづくりにつなげていきたいと感じた。

	・ 習志野市議会の視察では、市民に読まれる議会広報を目指し、表紙写真の市民公募や議会に関するクイズ掲載など、市民の関心を高める取組が積極的に行われていた点が印象的だった。特に、市民が撮影した写真を表紙に採用することで議会をより身近に感じてもらう手法は大変参考となり、また、駅前配布や公式LINE 配信なども活用しながら、「まず手に取ってもらう」ことを意識した広報展開が徹底されていた。一方で、表紙写真の応募者の固定化や発行時期と写真の季節感調整といった課題もあるが、議員と事務局が改善に向け継続して議論を重ねている姿勢に共感を覚えた。本市においても、より開かれた議会を目指し、時代と共に変化する広報手法を研究しながら、さらなる議会広報の充実につなげていきたい。 ・ まず議会だより、市政だよりを全戸配布していないことに驚いた。新聞折込や希望者へのポスティング、さらに議会報編集委員の議員による早朝駅前配布などその手段と合わせ、300万円近くの予算をかけておられることも本市の総代会にお願いする形と比較し興味深かった。しかし市の公式LINEへの登録者数が約76,000と、9割近くをなしていることには逆に感心した。また発行議会ごとに色を決めておられるのもよいアイデアだと思った。表紙写真の選定については、応募が通年募集で最初は年5件程度、最近は10件前後で、これまで計91件(180枚)、応募者38人とのことであったが、それを季節や時期を考慮して、年度で区切らず、積み重ねの中で選定しているとのこと説明に、ご苦労がうかがえた。学校写真部への働きかけなど、写真の公募には工夫が必要だと理解した。 ・ 市議会だよりの表紙写真を市民に親しまれる市議会だよりを目指し、平成26年5月から公募している。スタート当初は4件の応募であったが、多い年は13件の実績があるものの、応募枚数が少ないという課題認識をしている。また作品は通年で募集しているとのこと、場合によっては季節感が異なる表紙になるが、今後も募集方法は通年で考えているとのことであった。今後、本市において表紙写真の公募を実施するに当たり、発行タイミングごとに募集するのか、通年募集にするのかは検討する必要があると感じた。また、習志野市は市議会だよりを議会報編集委員により早朝(7:00~8:30)に駅前配布を実施しているとのことであった。市議会だよりを身近に感じてもらうには有効であるとも感じた。
委員長の総括	市議会だよりの配布方法がポスティング希望者への配布のためもあり、議会報編集委員により市内の駅前で、基本として発行日早朝に市議会だよりを手配りしている。委員の議会報への熱心な広報活動に感銘した。我々も何か見習う活動を研究したいと感じた。 表紙写真の募集においては、やはり市民に親しまれる市議会だよりを目指して実施していた。表紙の季節感に合った写真とするためにも通年募集は有効そうであった。ただ、応募枚数が少なく応募者が固定化してしまう課題は想像していたとおりであり、応募資格には「市に縁のある方も可」としていたことは、参考にしたい。

	編集委員会の正副委員長直々の説明を受けることができ、とても有意義な視察であった。
--	--